

うるし 漆工事 Vol.2

・漆を塗るための下準備 2020. 7. 20

漆を塗る前に、傷んだ箇所^{こくそ}の補修を行います。亀裂した箇所^{こくそ}に用いる刻苧^{こくそ}は、生漆^{きうるし}・米糊^{こめのり}・檫粉^{けやしこ}・綿^{わた}を混ぜたもので、これを割れが深いところに埋めていきます。檫粉は水分を吸収し収縮するので、生漆と米糊に混ぜる前に^{いぶ}燻り、刻苧の硬さを調節します。また、綿を使用することで刻苧を割れにくく、強固なものにします。刻苧は乾燥しやすいので、その日に使用する分しか作らず、空気に触れないように保存をします。

刻苧を埋める作業は竹べらを使用します。乾燥で収縮することを考慮して埋め、完全に乾いたら浮きあがっている部分を刃物で削ります。

次回は、柱を平坦にするために必要な下地作業について紹介します。



▲ 紫外線や風雨で傷んでしまっています



▲ 刻苧と生漆



▲ 木材の隙間も埋めていきます



▲ 少し高くなるように刻苧を埋めていきます